

**令和 5 年度**

**区の施策検証等に向けた大田区区民意識調査**

**〔18 歳以上の区民の方が対象〕**

**〔未就学児と小学生の保護者、中学生・高校生の区民の方が対象〕**

**【報告書】**

**令和 6 年 2 月**

**大 田 区**



# 目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	3
2	調査の内容	3
3	調査の設計	4
4	報告書の見方について	5
5	標本誤差について	5
II	18歳以上の区民の方が対象 ～ 暮らし・保健・環境の分野など ～	7
1	回答者の属性について	9
2	各種認知度について	16
	(1)「大田区DV相談ダイヤル」の認知度	16
	(2)「ワーク・ライフ・バランス」の認知度	18
	(3)「エセナおおた」の認知度	20
	(4)「女性のためのたんぼぼ相談」の認知度	22
	(5)「大田区立消費者生活センター」の認知度	24
	(6)「ゆいっつ（大田区青少年交流センター）」の認知度	26
3	生涯学習について	28
	(1)最近1年間の生涯学習の有無	28
	(2)最近1年間で行った生涯学習	30
	(3)生涯学習の活動場所	32
	(4)オンラインによる生涯学習の有無	34
	(5)生涯学習で身に付けた知識・技能・経験を生かしていること	36
	(6)今後行いたい生涯学習	38
	(7)生涯学習の満足度	40
4	スポーツ・運動について	46
	(1)この1年間に実施したスポーツ・運動	46
	(2)この1年間のスポーツ・運動の活動頻度	48
	(3)運動を始める（再開する）ために必要なこと	50
5	文化・芸術について	52
	(1)文化芸術活動の有無	52
	(2)区の文化・芸術事業に必要なもの	54
	(3)文化活動の効果で期待すること	56
6	地域活動について	58
	(1)近所の方への手助けとしてできること	58
7	バリアフリー・ユニバーサルデザインについて	60
	(1)「社会的包摂」の認知度	60
	(2)「成年後見制度」の認知度	62
	(3)「障害者差別解消法」の認知度	64
	(4)「ヘルプカード（たすけてねカード）」の認知度	66

8	喫煙について	68
	(1) 喫煙状況	68
	(2) 大田区が推進すべき、受動喫煙防止に向けた取組	70
9	健康づくりについて	72
	(1) 「はねびよん健康ポイント」の認知度	72
10	医療について	74
	(1) かかりつけの医療機関	74
11	食品ロス・フードドライブについて	76
	(1) 食品ロスを減らすための取り組み	76
	(2) 食品ロスとなった食品は何か多かったか	78
	(3) 「大田区食べきり応援団」の認知度	80
	(4) 食品ロス削減への取り組み	82
12	地球環境について	84
	(1) 地球温暖化防止のために、関心のある実践行動や学んでみたいこと	84
	(2) どのようなメッセージで行動変容につながるか	86
Ⅲ	18歳以上の区民の方が対象 ～ 買い物・まちづくり・住まいの分野など ～	89
1	回答者の属性について	91
2	安全・安心について	98
	(1) 防災への取組情報を取得したい場所	98
	(2) 「マイ・タイムライン」の認知度	100
	(3) 「マイ・タイムライン」の作成方法	102
	(4) 災害から身を守るための取り組み	103
	(5) 水害リスクの認知度	105
	(6) 参加したいと思う防災訓練の形式	107
	(7) 「自動通話録音機」の認知度	109
3	商店街について	111
	(1) 今後も残ってほしい商店	111
	(2) 今後も残ってほしい理由	113
	(3) 商店街に必要な施設	115
	(4) 商店街の情報を見聞きする場所	117
4	キャッシュレスについて	119
	(1) キャッシュレスでの支払いの有無	119
	(2) キャッシュレスの支払いで利用している手段	121
	(3) 今後、活用したいキャッシュレスでの支払い手段	123
	(4) キャッシュレスで支払いをしない理由	125
5	羽田空港跡地について	127
	(1) 「羽田イノベーションシティ」の認知度	127
	(2) 「羽田イノベーションシティ」に期待すること	129
6	バリアフリー・ユニバーサルデザインについて	131
	(1) 「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」の認知度	131
	(2) 各区立施設内のバリアフリー配慮	134

7	まちづくりについて	136
	(1) 活力・国際性のある都市づくりの進捗状況	136
	(2) 暮らしやすい都市づくりの進捗状況	138
	(3) 安全・安心な都市づくりの進捗状況	140
	(4) 環境に配慮した都市づくりの進捗状況	142
8	公共交通機関について	144
	(1) 公共交通機関の利用環境	144
	(2) 公共交通網の満足度	146
	(3) 公共交通対策で実現してほしいこと	148
9	耐震改修について	150
	(1) 建物の耐震改修の有無	150
	(2) 耐震改修を行っていない理由	152
10	空港臨海部について	154
	(1) 空港臨海部の魅力度	154
11	鉄道駅周辺のまちづくりについて	156
	(1) 駅周辺のまちづくり方針の要望	156
	(2) 蒲田駅周辺のまちづくりによる期待度	158
	(3) 蒲田駅の駅前広場やその周辺に求める機能	160
12	羽田空港跡地について	162
	(1) 「羽田空港跡地第1ゾーン整備事業」の認知方法	162
	(2) 「羽田空港跡地第1ゾーン都市計画公園コンセプトブック」の認知度	164
	(3) 整備される公園でしてみたいこと	166
	(4) 「ソラムナード羽田緑地」の利用有無	168
	(5) 「ソラムナード羽田緑地」でしてみたいこと	170
13	図書館について	172
	(1) 図書館等の利用頻度	172
	(2) 図書館で主に利用する機能・サービス	174
	(3) 図書館の満足度	176
	(4) 図書館を利用しない理由	182
	(5) 図書館に期待する機能・サービス	184
14	公園について	186
	(1) 公園の利用頻度	186
	(2) 公園を利用していない理由	188
	(3) 公園情報を取得する媒体	190
	(4) 公園でしてみたいこと	192
IV	未就学児と小学生の保護者、中学生・高校生の区民の方が対象 ～ 家庭生活・自転車の利用についてなど ～	195
1	回答者の属性について	197
2	災害時の避難等について	203
	(1) 「マイ・タイムライン」の認知度	203
	(2) 「マイ・タイムライン」の作成方法	205
	(3) 災害から身を守るための取り組み	206

(4) 防災に関する情報の収集方法.....	208
(5) 参加したいと思う防災訓練の形式.....	210
3 家庭生活について.....	212
(1) コロナ後の家事や育児の負担感.....	212
(2) 子育てに関する相談先の有無.....	214
(3) 「子ども家庭支援センター」の認知度.....	216
(4) 「子ども家庭支援センター」の事業の利用状況について.....	218
(5) 「子ども家庭支援センター」でのこどもからの相談受付の認知度.....	220
(6) 「子ども家庭支援センター」への相談について①.....	222
(7) 「子ども家庭支援センター」への相談について②.....	224
(8) 子育て家庭や親子に対する支援の意向.....	226
4 公園について.....	228
(1) 公園のルールについて賛同できるもの.....	228
5 自転車の利用について.....	230
(1) 「ヘルメット着用の努力義務化」の認知度.....	230
(2) 自転車の利用状況.....	232
(3) ヘルメットの着用頻度.....	234
(4) ヘルメットをしない（持っていない）理由.....	236
(5) サイクリングやサイクルスポーツの実施状況.....	238
(6) 守れていないと思う交通ルール.....	240
(7) 自転車の施設状況.....	242
(8) 損害賠償保険への加入状況.....	244
(9) 損害賠償保険に加入していない理由.....	246
(10) 「自転車ナビマーク・ナビライン」の認知度.....	248
(11) 区営駐輪場で不便に感じていること.....	250
(12) 「コミュニティサイクル」の認知度.....	252
(13) 自転車の運転マナーを知る機会.....	254
V 資料編 ～ 使用した調査票 ～.....	257

# I 調査の概要



## 1 調査の目的

各種計画に掲げる施策の検証や、より効果的な政策立案に資することを目的とし、区内在住の区民を対象とした意識調査を実施する。

## 2 調査の内容

18歳以上の区民の方が対象 ～暮らし・保健・環境の分野など～

- |                 |                           |
|-----------------|---------------------------|
| (1) 回答者の属性について  | (7) バリアフリー・ユニバーサルデザインについて |
| (2) 各種認知度について   | (8) 喫煙について                |
| (3) 生涯学習について    | (9) 健康づくりについて             |
| (4) スポーツ・運動について | (10) 医療について               |
| (5) 文化・芸術について   | (11) 食品ロス・フードドライブについて     |
| (6) 地域活動について    | (12) 地球環境について             |

18歳以上の区民の方が対象 ～買い物・まちづくり・住まいの分野など～

- |                           |                      |
|---------------------------|----------------------|
| (1) 回答者の属性について            | (8) 公共交通機関について       |
| (2) 安全・安心について             | (9) 耐震改修について         |
| (3) 商店街について               | (10) 空港臨海部について       |
| (4) キャッシュレスについて           | (11) 鉄道駅周辺のまちづくりについて |
| (5) 羽田空港跡地について            | (12) 羽田空港跡地について      |
| (6) バリアフリー・ユニバーサルデザインについて | (13) 図書館について         |
| (7) まちづくりについて             | (14) 公園について          |

未就学児と小学生の保護者、中学生・高校生の区民の方が対象

～家庭生活・自転車の利用についてなど～

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| (1) 回答者の属性について  | (4) 公園について     |
| (2) 災害時の避難等について | (5) 自転車の利用について |
| (3) 家庭生活について    |                |

## 3 調査の設計

調査地域	大田区全域
調査対象	[18歳以上の区民の方が対象] 大田区内に居住する満18歳以上の男女個人（外国人を含む） [未就学児と小学生の保護者、中学生・高校生の区民の方が対象] 大田区内に居住する満12歳以上の男女個人（外国人を含む） 大田区内に居住する満12歳以下の方の保護者の方（外国人を含む）
標本数	[18歳以上の区民の方が対象] ～暮らし・保健・環境の分野など～：2,000人 [18歳以上の区民の方が対象] ～買い物・まちづくり・住まいの分野など～：2,000人 [未就学児と小学生の保護者、中学生・高校生の区民の方が対象] ～家庭生活・自転車の利用についてなど～：2,000人
抽出方法	層化無作為抽出法
調査方法	配布は郵送方式、回答収集は郵送又は電子申請方式
調査期間	令和5年11月17日～令和5年12月8日
有効回収数	[18歳以上の区民の方が対象] ～暮らし・保健・環境の分野など～：644件 (郵送443件+電子申請201件) [18歳以上の区民の方が対象] ～買い物・まちづくり・住まいの分野など～：601件 (郵送404件+電子申請197件) [未就学児と小学生の保護者、中学生・高校生の区民の方が対象] ～家庭生活・自転車の利用についてなど～：674件 (郵送351件+電子申請323件)
有効回収率	[18歳以上の区民の方が対象] ～暮らし・保健・環境の分野など～：32.2% [18歳以上の区民の方が対象] ～買い物・まちづくり・住まいの分野など～：30.1% [未就学児と小学生の保護者、中学生・高校生の区民の方が対象] ～家庭生活・自転車の利用についてなど～：33.7%

## 4 報告書の見方について

- (1) 図表中の「n」とは、その設問の回答者数を表している。
- (2) 調査結果の比率は、その設問の回答者数を母数として、小数点第2位を四捨五入して小数点第1位までを示しているため、その合計値が100%にならない場合がある。
- (3) 複数回答の設問は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- (4) 属性別クロス集計等は、無回答を除いているため、回答者の合計が全体と一致しない場合がある。
- (5) 年代別は、18歳以上の区民の方が対象では男女ともに「18～19歳」の回答者数が少数であるため、「10・20代」とまとめて集計及び掲載している。未就学児と小学生の保護者、中学生・高校生の区民の方が対象では男女ともに「19～20歳」の回答者数が少数であるため、「19～29歳」とまとめて集計及び掲載している。
- (6) n=30未満は、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。
- (7) 図表及び文章中では、選択肢を一部省略している場合がある。

## 5 標本誤差について

今回のような調査対象（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査では、全数調査（全ての人を調査）と比べ、調査結果に差が生じることがある。その誤差を標本誤差という。

標本誤差は、95%の信頼度で以下の式から得られる数値であり、真の値（全数調査をした場合に得られる数値）は標本調査で得られた結果に、この標本誤差を引いた値と加えた値の範囲内にあることとなる。

$$\text{標準誤差} = \pm 2 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N：母集団の大きさ  
n：回答者数  
p：回答の比率（%）

【各調査回答率における標本誤差早見表（信頼度95%で算出している）】

回答の比率 (p) 回答者数(n)	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
1,000	± 1.9%	± 2.5%	± 2.8%	± 3.0%	± 3.1%
792	± 2.1%	± 2.8%	± 3.2%	± 3.4%	± 3.5%
780	± 2.1%	± 2.8%	± 3.2%	± 3.4%	± 3.5%
772	± 2.1%	± 2.8%	± 3.2%	± 3.5%	± 3.5%
500	± 2.6%	± 3.5%	± 4.0%	± 4.3%	± 4.4%

### 早見表の見方

たとえば、今回の「18歳以上の区民の方が対象～暮らし・保健・環境の分野など～」の回答者数（780人）を100%とする比率で、ある質問の回答が50%であった場合、大田区民（区内在住の18歳以上の方）のこの質問に対する回答は、46.5%～53.5%の間にあると考えられる。

